

第271号（2023年2月号） / 2023年2月1日発行

2023年度総会開く 4月23日投開票の市議会議員選挙で 5名の予定候補を推薦

コロナ禍のため開催を延期していた定期総会を1月28日（土）東京土建会館で45人の参加で開催しました。2023年度活動方針案と4月23日投開票の市議会議員選挙で会が推薦する予定候補者の提案、決算・予算の報告、会構成団体による討論を行いました（文責：編集部）。



開会挨拶（矢野裕共同代表）

市議会議員選挙は3つの意義があり、1つは、松原市長が強権的な政治に後戻りして市民派市政の到達点を崩しつつあるなか、市民の生活と権利を守り、住民が主人公の住民自治を打ち出す候補者の方を、1人でも多く狛江市議会に送り込まなければならないこと、2つは、岸田政権が安保三文書を発表し、戦争ができる国に向かっていくが国政選挙はなく、統一地方選挙は岸田政権と対決する政治家を市議会へ送り出すことが、狛江市民の平和への意思を示すことになること、3つ目は、政治を変えるために政権交代が必要で市民と野党の共闘が不可欠だが、現在の足踏み状態を各地から市民と野党の共闘への再構築を図っていかなければならない。狛江でも市政での評価の違い、個々の政策の違いは確かにある、そして許されない部分もあると思うが、立憲政治を取り戻す原点で手を携えないといけない。そういう仕事ができる議員、地方政治家を狛江でも増やしていかないといけない。

総会では、各分野からの要求実現のため。国の政治を変える小さな一歩になる市議選へ、共に訴えていきましょう。

経過報告と提案（前土肥保事務局長）

1. 方針案は文書で提示
2. 市議選にあたり議案の補足提案

世話人会は、立候補を予定している方たちに「豊かな会が掲げる“市民本位の狛江市政”の基本方向」を提起した文書で、会と共同できれば会として推薦・応援する旨を申し入れや懇談を行いました。

なお、自民党・明政クラブ、公明党、無所属の三宅さん、吉野さん、辻村さん、新人の都民ファースト・佐々木さん、維新の会・きたみさんには呼びかけておりません。

日本共産党は現職の宮坂良子さん、西村あつ子さん、岡村しんさん、新人の荒木てつさん、重国たけしさんの5人全員が受諾していただきました。

社会民主党狛江総支部からは「現在、擁立に向けて努力している。決まった際には是非支援を受けたい」とお申し出をいただきました。

無所属の平井里美さんは、「相談の結果、無所属議員としての役割を最大限に活かしていきたいので、どこの推薦も受けないことにいたしました。ありがたいお話ですが辞退させていただきます」と返事がありました。立憲民主党こまえ・高木さとこさん、加藤功一さん、れいわ新選組・前田信さん、生活者ネットワーク・松崎よし子さんは、豊かな会の方針に多くの点で賛同をいただきつつも、それぞれの事情から「今回の推薦は遠慮したい」旨のお返事をいただきました。

以上の結果から、日本共産党の5人を推薦すること、今後の社民党候補者の取り扱いは世話人会に委ねていただきたいと提案しました。

会計報告（決算・予算）若見洋子会計担当

2022年度決算を報告し、次回の市長選に向けての市長選の準備金を積み立てる2023年度予算(案)を提案しました。

市政・情勢報告（鈴木悦夫市議）

市民が主人公の市政を壊してきた自公市政の10年間を総括する。矢野市政は少数与党の中、莫大な借金も返済しながら、安心安全のまちづくりに全力で取り組んできた。全国的に先進的な情報公開条例、市民参加基本条例、まちづくり条例を制定し、文字通り市民が主人公の市政実現へ前進させてきた。矢野市民派市政は、保守層の支持も得て、市政施行以来最長の4期16年間、市政を担うことができた。

今、この市民の財産が高橋・松原市政の10年間で壊されようとしている。高橋市政は、市民の幅広い参加で作った基本計画を、形だけの住民参加で改定。平和フェスタからも後退した。セクハラ問題は全国的に大問題になり、市民の信頼は再びどん底に落ちた。

市民が4,000筆も署名を集め、中央図書館公民館の抜本的な充実を求め、市議会も全会一致で採択した。市はその場で強引なやり方を謝罪し、200回の会合を重ねて、市民提案書をまとめた。高橋市長自ら「この提案書を基本に新しい市民センターをつくれます」と押し返した。

ところが松原市長はこれを反故にして、市民に不便を強いる移転計画を押し付けている。日本共産党は条例違反だと追及し、市長はついに「市民の声を聞いていたからまとまらなかった」と、参加と共同に背を向けた。高橋市政が形骸化させ、松原市政は条例に背を向けるところまで突き進んでいる。まちづくりの基本、条例の遵守は行政の大原則。自民党明政クラブは条例遵守を求めた私たちに「不毛な議論」と罵声を浴びせてきた。市議会議員選挙は、議会のチェック機能を放棄する自民公明とその補完勢力か、市民が主人公の立場で暴走政治をチェックし、参加と共同を取り戻す勢力なのかが問われる選挙になる。厳しい審判を下そう。日本共産党5議席の前進、市民派市政を進める勢力の前進で、市民が主役のまちをつくっていこう。

現市政は市民に負担増を強いて積立金を2.5倍化した。矢野市政以前は多摩地域トップの土木費比率で莫大な借金をつくったが、矢野市政はこれを16年間粘り強く返済続け、この努力で64億円も減

少している。昨年度の決算では23億円もの黒字。市民生活を守る大幅な財政的余裕ができています。

松原市政は、急激な物価高騰とコロナ禍で大変な時に、国保税を4人家族で10万8000円も値上げする計画を押し進め、介護保険料の度重なる値上げを市民に押しつけている。総額29億円のコロナ対策のうち狛江市が負担したのは8,300万円わずか3%。日本共産党は毎年予算の組み替え提案を行い、財源も示しながら、市民要求を提案し続けた。市議会では自民党や公明党、立憲まで反対して否決され続けてきた。しかし毎議会ごとの一般質問などでも繰り返し要望をし続け、子どもの医療費無料化の小6までの所得制限撤廃、就学援助の拡大（生活保護基準の1.4倍へ）、生活困窮者へのエアコン設置、防災ラジオの貸し出し制度、防災対策では強力な排水ポンプの整備計画を実現させることができた。今度の市議選ではぜひ、自民公明中心の市政の中でも、粘り強く提案し続け、実績を上げてきた日本共産党の議席を5人に伸ばしていただき、子ども医療費のさらなる拡大、給食費無償化、補聴器助成、調布狛江への保健所復活、実現させていただきたい。

市議選定数22で30人近くの立候補が予想され、1票1票を争う大激戦。大軍拡大増税をストップさせ、市民の声が真っ直ぐ届く市政を実現するために日本共産党5議席実現のためご支援をお願いしたいと結びました。

(10期40年間務めた鈴木議員は今期で勇退します。)

討論（会構成団体などから）

2022年市長選挙について（大久保高子世話人）

「豊かな会」が、1996年に市長選挙の選挙母体として発足し、昨年の市長選は8年ぶりの市長候補をたてての選挙でした。昨年2022年6月26日投開票の市長選は、周東三和子世話人が出馬表明してから、5週間の選挙戦でしたが7997票という貴重な支持を得ました。4年後に若い世代を擁立できるように、豊かな会の発展・強化をみなさんと力を合わせて果たしていきたい。

ちょっと待って図書館移転連絡会こまえ（林健彦さん）

図書館移転と、市民センター改修の問題は、内容の面と手続きの面の両方問題がある。一番の元凶は、20年8月の基本方針。市民協働で作成された市民提案書(市民センターの増改築)に基づき進んでいたものが、突如、まるで異なる図書館の分割と狭い新設図書館移転を、「決定だ」として市民参加なしで進めら

れてきた。

基本構想は出たけれども、まだ設計前の段階。十分チャンスはある。署名は引き続きやり、全戸配布ビラを作ろうと準備している。

狛江生活と健康を守る会（福傳 潔事務局長）

小泉から始まった新自由主義で困っている層を支援するため最前線で闘っていること、格差と貧困が進みアベノミクスを含め、世界的に新自由主義が行き詰まりを見せていることを告発。

東京土建狛江支部（牧岡義隆書記長）

市議選立候補予定者にアンケートを出し、メンバー、インボイス、平和関係をどのように思っているか問いたい。

賃金や物価、平和軍拡をテーマに4月2日、狛江駅前前で14時からアピールをしながらデモをやることを決めた。立候補予定されている方々に野党だけでなく与党にもお誘いしたい。

税金。インボイスの学習会や反対運動をやっている。みなさんと一緒に取り組んでいきたい。

調布狛江府中民主商工会（斎藤衛事務局長）

10月に始まるインボイス制度はフリーランスの方たちの意識が強いこと、税務署も制度説明ができないなどを紹介。

こまえ社会保障推進協議会（岡村誠会長）

狛江社保協は結成10周年を迎えました。介護保険の改悪で今年出されているのは4つ。今は利用料が1割負担だが、平均2割にすると。2つ目は要介護1・2の人たちを自治体が実施する地域支援・総合事業に移していく。3つ目はケアマネージャーがつくるケアプランを有料化する。4つ目は介護を受けるときの杖や車椅子、これを全て有料化する。以上4つの話が出てきている。高い介護保険料を払っているのに無料で受けられて当たり前なのに、「介護を受けさせない」と言う中身になっている。

戦争なんてイヤだ！狛江市民実行委員会（小俣三郎さん）

狛江駅前の丸の日行動は、20人程度が集まり、署名が20から30くらい集まっている。

衆院東京22区市民連合「ちょこみな」で3月3日菱山南帆子さんに情勢の特徴と市民と野党の共闘のこれからというタイトルでお話ししてもらった。4月2日には市内デモを計画しています。

平和を願う気持ち、民主主義を守る運動を、狛江市内に広げ、ニュースとして近隣全国に広がる取り組みにしていきたい。

都教組狛江地区協（三木寛さん）

コロナ禍で子どもが群れて遊べなくなり、短距離走練習で子どもが最後の30mを真っ直ぐ走れないなど、走る力がなくなってきている。友達と交わって遊ぶことがなく、どこまでやっていいかわからなくて、相手が泣いているのに蹴ったりなど、学校に入るまでの間、暗黙のうちにわかっているべきことがわからない。

保護者の方もそういった対応をしていないので、うまく子どもを育てる機能が、学校にも育っていないと最近感じている。

新日本婦人の会狛江支部（周東三和子支部長）

新婦人は昨年結成60年を迎えた。女性の視点でくらしと平和の問題に取り組んでいる。現在補聴器補助制度と給食費無償化署名などを進めている。署名ではない意思表示も工夫したい。

狛江市雇い止め裁判（原告 岩崎保男さん）訴え

1月19日に最高裁要請行動で3678筆の個人署名と38筆の団体署名を提出したこと、次の最高裁要請は2月22日を予定しており、最高裁での逆転勝利を勝ち取るため諦めずに宣伝、署名活動に取り組んでいきたい。

議決 全ての議案が拍手で承認されました。

会が推薦する予定候補の紹介

7期目を目指す西村あつ子市議、5期目を目指す宮坂良子市議、4期目を目指す岡村しん市議、新人の荒木てつさん、重国たけしさんの5人が決意を述べました。

小俣世話人が市議選と岸田政権の危険な動きを止めるため狛江市で踏ん張って頑張っていこうとよびかけ閉会しました。

会費の納入のお願い

年会費は1口1,000円（何口でも）です。会の運営・持続のためにご協力をお願いいたします。

「豊かな狛江」2月号に払込取扱票を同封しました。手数料は加入者負担なので無料です。

注)窓口・ATMとも通帳・カード扱いは無料ですが、現金払いの場合は手数料110円を徴収されますので、ご注意ください。

市民センター改修基本構想案および新図書館整備基本構想案に関する パブリックコメント結果について（その2）

意見内容から見えるもの

和泉本町 西尾真人

今回はマクロにパブコメ意見の「数」の分析をしました。その結果は、①提出者数 118 人（意見提出 203 件）で一般的な狛江市のパブコメ提出の 5～10 倍であり、関心の高さは群を抜いていること ②基本構想（案）の基となる「基本方針」（図書館の分割移転、市民活動支援センターの市民センター内への移設等）に明確に反対する意見（人）は構想（案）に賛成する意見（人）の倍に上ること ③「賛成」「反対」を明示していない意見の内、構想（案）に厳しい批判をしている意見がそのうちの 7 割を占めていること などを明らかにしました。そして、基本方針に反対する意見提出者が圧倒的に多く、「その核心は図書館の分割・移転と市民参加条例違反を含めた手続き上の問題指摘です。このような状況を踏まえれば、…図書館の分割・移転をなぜ選択したのか、少なくとも説明責任が市にあります、そのための公聴会なり説明会さえ設けようとしません。結果は皆さんが知っているように、批判の強かった会議室の増設を手直しする程度で、形式的なパブコメにおとしめ、強引な基本設計突入です。まず、その点での基本的な批判をしておきたいと思います。」と結論を述べました。

今回は意見の内容に踏み込んでみたいと思います。

まず、意見の分量ですが、「基本方針」に反対と構想（案）に賛成する意見の比は 20 : 1 程度までに広がると思われます。分量で測るわけではありませんが、反対意見が、なぜ反対するのか、何が問題なのかを丁寧に客観的に説明しようとしているのに対して、賛成は結論的な意見が多く、なぜ市の提案が良いのか論証的な意見はほぼ無いと言っても言い過ぎではありません。それがこの差につながっています。「基本方針」に反対を明確にしていなくても、問題指摘をしているパブコメを含めれば文章量の差は 30 : 1 位まで広がるかと思われます。

次に意見の内容ですが、両者の意見はそのほとんどが明らかに噛み合っておりません。反対する理由、問題意識について賛成者からそれに対する内容的な批判が全く出されていません。市の対応が「基本方針」に反することは一切拒絶して、それに対する説明さえしないことに影響されているのかもしれませんが、それは驚くほどです。（外形的には「市長選で結果が出ている」などありますが、現職市長が積極的な争点にしていなかったこと、および一施策の是非は選挙結果とは異なると考えます。）

賛成意見のいくつかを紹介します。

市民センター改修について

○基本構想（案）に特に意見はない。完成後の運用で大部屋確保が難儀しているので取り計らって欲しい。（筆者メモ：第 4 会議室が廃止されることに賛成しながら、運用でカバーして欲しい、というのはよく理解できません。）

○活動支援センターが市民センターに移転することで、公民館で学んだ成果が地域コミュニティの活性化につながる。（メモ：まず公民館活動を活発化することは考えないのですか？移転がなぜ活性化に繋がるのですか？）

○特に賛同したいことに利用区分の変更。高校生や学生の生活リズムに午後の後半の利用区分が利用しやすい。

○新市民センターで町会や子育て世代が集まり、活性化する。

図書館について

○蔵書も増えて見つけやすく、これからの時代に対応した図書館となりそう。

（メモ：時代に対応した滞在型図書館にはなりません？）

○耳の遠い高齢のため、文字を読むのが楽しみ。
○車いす利用の高齢者。電子図書なら文字を大きくして読めますか。新しい図書館にチャレンジします。

○本のおかげで様々な人生の山を乗り越え本と共に豊かに生きて来れた。図書館大好き。

○図書コーナーは子どもと利用しやすいと聞いた。音が出ても大丈夫なスペースができると有難い。

○周りの利用者のことを気にせずに、子どもを連れていくことができる図書館ができることが楽しみ。大人利用と使い分けできる。（メモ：新設図書館は子どもを連れて行き難くなることについては考えなかったのですか）

○新しい図書館ができ、本が増え街の風景も良くなると子ども達も喜んでいる。

○フラッグシップである「中央館」は「独立」するのが望ましい。バス停名の変更を。

（メモ：その中央館は児童図書が無く、読書調査室もなく、イベントも出来ず、庭もなく駐車場なし、駐輪場不足でも「独立」が良いのですか？）

○市の南側は公共施設が少ないので、新しい施設ができ歓迎。（メモ：10 件近くあり）

○商工会が駅近くになり、商工の発展に力が注がれると思う。

○特段の意見はない。構想案賛成。(メモ:計 12 件)

以上、特徴的な意見を挙げてみました。

皆さんは、これらの意見をどう思われますか。

反対意見の最大の問題点は「図書館の分割・移転に反対」です。現在地での図書館の拡充は市が行った調査結果から同規模予算の範囲内でも、○南側に沿う横増築(本体と廊下で繋ぐ)、○新築建物は主に公民館として利用する、○市民センターを考える会が提案した木造縦増築など、検討すれば実現できます。それが実現すれば、賛成意見のほとんどが吸収できます、つまり、大多数の市民がこの市民センター増改築問題、図書館問題に賛成し、その改修計画を歓迎することになります。図書館での子ども用スペースを分離して、気兼ねなくすることはどの図書館でもやっていることで、わざわざ 400m も分離する必要はありません。

対立的になると思われる意見は「市民活動支援センター」の問題ですが、話し合えば十分に解決できることです。例えばですが現状の高架下でも連携機能の方策を考えること、あるいは駄倉地区に建設する場合はそちらに入れることなど色々な案が生まれるでしょう。もう一つの「中央館は『独立』しているのが望ましい」との意見です。これには様々な意見があると思います。現在の市民センターとして一緒になっていけばこそその利点は図書館のイベントがやり易いこと、公民館利用団体が活動中でもすぐに調べられることなど、両者に様々なメリットがあります。百歩譲って本来「独立」が望ましいとしても、これほど貧弱な中央図書館(メモ書きしました)は望まないのではないのでしょうか。将来の課題として、来るべき時に独立図書館にしていただければと思わざるを得ません。

なお、公民館の利用区分の問題は部屋数を増やせないことから、姑息な手段として一日 4 区分に増やそうとしていることです。パブコメ意見にあるように高校生などの利用ならば青年向けの部屋の時間帯を変えることは話し合えばすぐにでも解決できることと思われます。市は今もアンケートと称して一律の 4 区分を押し付ける動きを止めていません。

再度繰り返しますが、市民の大多数が賛成できる条件がありながら、市民の意見を無視し、話し合いを拒否し、「基本方針」にしがみつくとはいけません。撤回をするべきと考えます。

前回に続き、パブコメ意見からいくつか紹介します。今回は図書館問題以外です。

No. 195 要旨

予算規模についても開かれた議論をおこない市民合意を得るべき。市民を信頼し、必要な情報提供をていねいにおこない、基本方向については市

民的議論に委ねるといったくらいの構えで取り組むことが必要だ。疑問が強まるのは市民要望とかけ離れた図書館移転・分割という「基本方針」がなぜ決定されたのか、頑なに見直しを拒んでいるのかという点。無作為抽出の市民に協力を求めたアンケートの結果(2020.5)でも、7割が大幅なスペース増を求めている。

現在の市民センターに縦及び横に増築することは技術的には可能にもかかわらず、市は「20年後などの市役所建て替えとともに市民センターも建替えるため、無駄になる」といった説明がなされている。20年後の市役所建て替えは確定してもいないし、改修後の市民センターは、建築物の状況を見ながら、30年40年と使い続ける可能性は十分にある。一体的整備は選択肢の一つであり、その選択肢を残すために市民要望に応えないのは本末転倒。(以下、図書館の分割・移転批判など6点ほど具体的な提案あり)

No. 7 要旨

公民館については、みんながいつでも集えるコミュニティスペースや、学習や活動の部屋を増やして欲しいという要望が、満たされていない。また駄倉地区センターの閉鎖による利用者増が考慮されていない。

部屋の利用人数は、利用実態によらない数字の上だけの検討で必要とするスペースが考慮されず、極端に狭い部屋や間仕切り分割で部屋数を増やしている。一方若者向けと称して、昼間は利用しない部屋を増やし、これまで活動してきた利用者団体には使い勝手の悪い構成になっている。また時間区分を4分割というのは非常に使いづらい時間帯が生じ、また2コマ続けて取れないと活動できないことも起こる。ワークショップでは時間が足りず、議論は不十分で、利用者の声を反映せず、コンサル会社に都合良く進めさせた案だ。利用者の声を聞き見直すべきだ。

市民センターは、市民が生き生き活動するための大切な社会教育施設です。市民一人一人がまちの主役として活躍するための、大切な学びの場であり、まちづくりの実践へとつなげる場です。多様な世代が集い交わる場所ではなくてはなりません。市民提案書はそのことを念頭に多くの市民が参加して作り上げたものです。再度そこに立ち戻れ。

No. 78 要旨

市民センターにこまかくぼが入ることに反対。公民館スペースが狭くなり、活動できない団体が出てくることになりかねない。

2月の市民運動などの予定

※今月、市民運動団体などが予定している各種会議やイベントなど、日程を掲載するコーナーです。編集部が把握する情報には漏れがあると思いますので、ぜひあなたの情報をお寄せください。※本紙に折り込んでほしいピラなどがありましたら、320部用意してください。会報製本・仕分け作業日前日が締め切りとなります。折り込み希望の方は、可能な限り、会報の製本・仕分け作業をお手伝いください。

日 時	会場など	内 容	問い合わせ先など
3日(金) 14時～15時	狛江駅前広場	Silent Standing	《平和憲法を広める狛江連絡会》《こまえ九条の会》
9日(木) 15時～16時	狛江駅前	9の日行動 = 駅前署名・宣伝行動	戦争なんてイヤだ！狛江市民実行委員会
11日(土) 15時～16時	狛江駅前	フラワーデモ 性暴力に抗議するスタンディング	新婦人狛江支部の会員の呼びかけで行っています。お花を持って参加を！
15日(水) 14時～ 15時30分	東京土建狛江支部会館	戦争なんてイヤだ！全体相談会	各加盟団体の皆さんは、ご出席ください。
16日(木) 15時～16時 30分	中央公民館 料理実習室	《平和憲法を広める狛江連絡会》《こまえ九条の会》合同世話人会	新しい方の参加大歓迎です。
22日(水) 15時～16時	狛江駅前	《消費税をなくす狛江の会》の署名行動	民主商工会や東京土建狛江支部などが中心に第4水曜日の行動です。
27日(月) 14時～16時頃	みんなの広場	拡大世話人会	世話人以外の方の参加歓迎です。
28日(火) 9時30分 ～11時頃	みんなの広場	豊かな会会報『豊かな狛江』3月号の製本・仕分け作業	ぜひ！手伝いにきてください。

※コロナ感染状況によっては中止になる場合もあります。



九の日行動 2023.1.9

寄稿 「戦争する国」づくりに向けた準備を止めよう

永山 利和(元日本大学教授)

“聞く力”の岸田政権が、“暴(走)力”政権に豹変した。この政権は支持率が下がれば下がるほど右に寄せる操縦装置をもっているようだ。故安倍晋三が岸田政権に乗りうつり、安倍アヴァター(化身)へ化身した図を見る。

日本を、“死者、生者を捉え、その死せる意味を問わない”社会に移行させる政権が岸田政権である。「新しい戦前」にするように、消えたと思われた戦争(行為)に対する正当化を進め、旧態が時代逆行的に蘇り、いまに生きる我々を圧迫し始める政治体制を危惧すべきだ。

2022年11月22日、「国力としての防衛力を総合的に考える有識者会議」に参画し、同会議の報告書策定に参画した一人である京都大学中西寛教授は、フジテレビの番組で、自分の意見を述べる時間も少なく、急テンポな会議進行にある種の警戒を発言した。「有識者会議」報告書の約3週間後の12月16日、岸田政権は「国家安全保障戦略について」、「国家防衛戦略について」、「防衛力整備計画について」といういわゆる防衛3文書を閣議決定した。これら3文書策定は防衛計画の予定の行動ではある。有識者会議報告書は昨年9月から、わずか4回の会議で決定された。短期間に策定された有識者会議の報告書は、影のライター、報告書執筆者グループがいること、防衛、外交、経済、財務などの作業集団もあり、その集団は周到に準備し、公表の機会を図っていた。ロシアのウクライナ侵攻、中国、北朝鮮との緊張を見、一気に公表した経緯を背景としている。防衛費2倍論は、昨年初から内閣官房、防衛省職員が多くが論じている。

例えば防衛権研究所高橋杉雄氏は、防衛研究所『東アジア戦略概観 2022』で、攻撃側は防衛側の3倍の兵力を要するという命題に照らし、対中防衛必要経費を約10兆円とし、防衛費2倍論を提起している。彼が執筆グループ員とはいわない。が、こうしたスタッフが動いて報告書作成に至ったことは明らかである。財務省財政制度審議会も22年5月の建議で、歴史的転換予算を建議している。既に着々と準備した形跡は明白である。

ただ、報告書は、財政だけを論じたわけではない。「日本が持てる力、すなわち、経済力を含めた国力を総合し、あらゆる政策手段を組み合わせ対応する」。対応の内容は財政以外の多岐に亘る総合的な方向転換を求める。その柱は、①自衛隊の装備

および活動を中心とする防衛力の抜本的強化、②自衛隊と民間との共同事業、③研究開発、④国際的な活動など、日本の防衛力に資する政府の取組の整理など、防衛力中心の技術力や産業基盤の強化とともに、「有事であっても日本の信用や国民生活が損なわれないよう、経済的ファンダメンタルを涵養していく」ことにあると提示する。総合的防衛体制の強化と経済・財政の方向転換を示している。これらは日米合同委員会にまで遡った経緯を見ておく必要がある。

岸田政権の戦争国家づくりに関して、財政問題に国民の注意を集中させ、“国体”転換全体が見え難くする意図を読むべきである。もとより軍国化には何よりも財政規模、財源が必要で、大きな論点である。だが他に大切に重要な論点がある。とくに国家行政組織全体の転換がより重要な論点である。その基幹は報告書がいう上記の②、③、④という総合的戦争可能態勢づくりで、それこそが報告書の趣旨である。

この注意事項には歴史的な経験を踏まえる必要がある。かつて第二次大戦に移行する前、国際連盟が組織し、派遣したリットン調査団が満州事変に関する国際連盟への報告書(=いわゆるリットン調査団報告、1932年10月)は、日本の権益拡大への不当性を示したうえ、対応策を提示した。報告書によって日本の国際連盟脱退に到り、戦争に関するイニシアティブは軍部、すなわち南満州鉄道警備を目的に組織された関東軍が握り、対中戦線を拡大し、満州帝国定制を強行し(1934年3月)、日中戦争に突入(1937年)した。翌38年4月に国家総動員法が施行され、本格的な戦争経済に移行したのである。この時も財政問題は外貨保有と貿易関係調整方策から、大規模な物資動員計画へと移行し、結局、総力戦に突入した。この動きと今回の有識者報告書とが深く重なるのである。とくに、財政危機の下、総力戦は国民に多くの負担増にならざるを得ない。いま多くの国民はそれ等の歴史的経過を知らされず、自衛隊費用だけで戦争をやり過ごせると思って、緩やかな平穏な生活持続を予想している。今、国防強化による変化をいかに知らせることができ、個々人への周知から始めなければならないほど、事態は切迫している。今なら、大軍拡国家が生む苦しみを止められる。

フォトジャーナリストが語る
福島 風下の村の人びと

～浪江町津島の取材体験をもとに～

日時：2023年2月5日（日）

午後2：00～4：00

場所：狛江市中央公民館 地下ホール

講師：森住 卓 さん（フォトジャーナリスト）

資料代：500円 募金歓迎！

森住さんの著書を販売します。

コロナ対策のため、先着75名（マスク着用）

主催：原発と気候危機を考える狛江の会

連絡先 西尾真人 03-3480-7477

春の学習会

**戦争を起こさせない
ことはできるの？**

～外国からの脅威があると言われるが～

講師：半田滋さん（防衛ジャーナリスト）

日時：3月26日（日）14時～16時30分

場所：中央公民館第4会議室

参加費：500円（学生・障害のある方 無料）

主催：平和憲法を広める狛江連絡会・こまえ九条の会

連絡先：小俣 03-3488-1437

狛江の自然



ヒヨドリ

日本の各地に広く分布する鳥。花の蜜・果実を好むといわれているが、果実にも好みがある。例えば、まるで寄り付かないキンカンと、群れで来て、あっという間に食べつくすキンカンがある。ちゃんと舌で味見をしているようだ。写真は、味見をしている舌がみえる。

高橋 廉（岩戸在住）